

美容外科手術

形成外科では美容外科の手術も行っています。

施術内容や方法の詳細は外来を受診して聞いてください。

ご希望内容に合わせた治療方法をご提案します。

治療費は健康保険が適応できる場合と、自費になる場合があります。

美容外科手術の代表例で眼瞼下垂と刺青について簡単にご説明します。

☆眼瞼下垂

緊張型頭痛（日本人の頭痛の半数を占める）が眼瞼下垂から引き起こされることが、近年わかってきました。

眼瞼下垂とは？

私たちがまぶたを開けるときには、眼瞼挙筋という眼の奥の方にある筋が働きます。この筋と瞼板（上まぶたにある硬いもの）を腱膜という薄い組織がつないでいます。この腱膜がまぶたの皮膚にまで付いていると、まぶたを開けたときに二重まぶたになります。この腱膜と瞼板の結合は弱く、様々な原因ではずれてしまうことがあります。この結合がはずれてしまうと眼瞼下垂が生じるのです。最近、コンタクトレンズ装用を継続することによって眼瞼下垂が多発しています。他に眼瞼下垂とよく似た症状に加齢により皮膚がたるんでしまう皮膚弛緩症や、アジア人ならではの一重まぶたも頭痛、肩こりの原因になります。

眼瞼下垂だと？

眼瞼下垂だと眼瞼挙筋が作用しないため、まぶたを開けるために眉毛を持ち上げてものを見ようとし、眉毛を持ち上げる筋肉は、前頭後頭筋といいます。ものを見るためにいちいち前頭後頭筋を使用するため頭痛が生じます。眉毛を持ち上げる代わりにあごを突き出して上目使いになる人も、あごをあげる僧帽筋を酷使して肩こりが生じます。

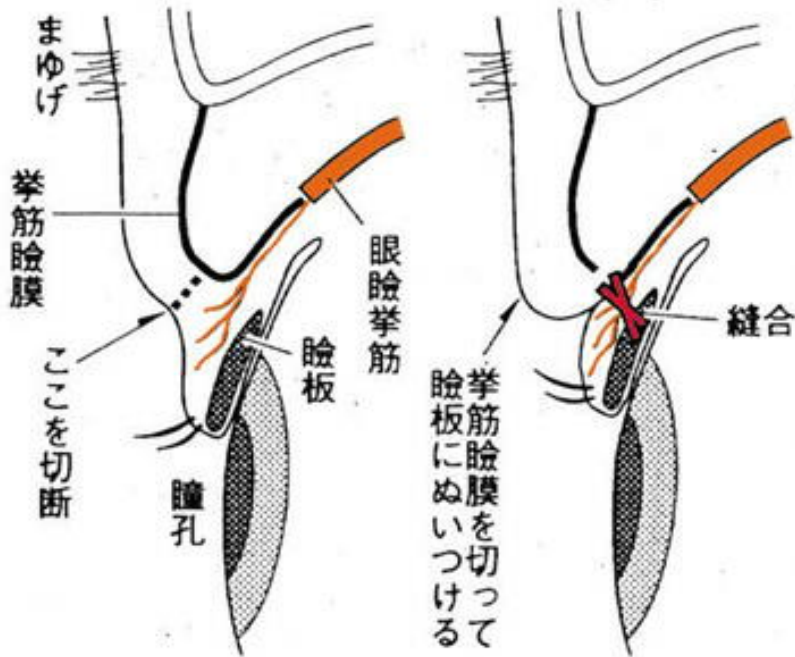
手術方法

手術は、局所麻酔で行います。

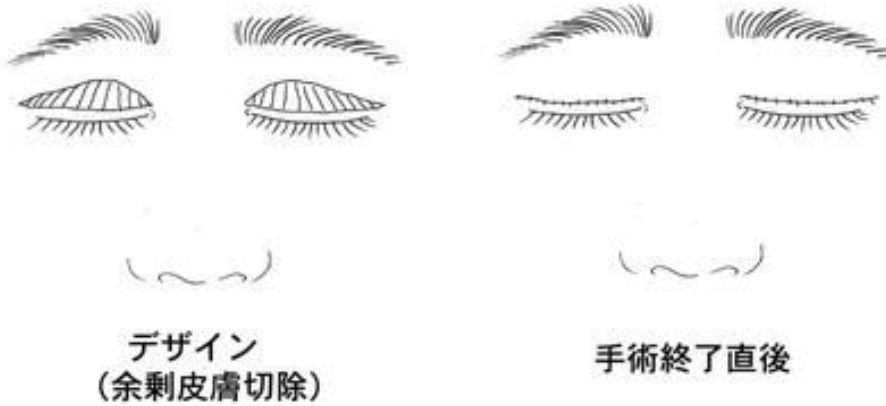
まぶたの皮膚を切開し、はずれてしまった腱膜と瞼板を再固定します。また、あわせてたるんだ皮膚も切除します。その結果、二重まぶたになります。

手術前のまぶたが垂れさがった状態

手術後



手術後はしばらくまぶたがかなり腫れますが、ものを見ることはできるので、日常生活には差し支えありません。頭痛、肩こりの症状改善の程度は、個人差があります。



治療費、治療日数など

手術および手術前の検査、手術後の抜糸や診察などは全て健康保険が適応できます。

健康保険の種類やその後の通院回数により金額は異なりますが、大体5万円~7万円程度です。

治療経過

手術の約2週間前に簡単な血液検査を外来で行い、体に異常がないことを確認します。

手術は1泊2日の入院で行っています。

入院していただくのは手術後の安静、冷却、その他手術後の出血などのトラブルにすぐに対処できるようにするためです。

1日目の午前10時に入院していただき、手術は午後13時から順次始めます。

手術時間は1時間程度です。

手術後は病室で安静にいただき、アイスノンで冷却します。

トイレ歩行や売店に行くことなどは可能です。

2日目の朝10時に診察し、退院となります。

手術後1週間後に外来にて抜糸します。

問題なければこれで治療は終了です。

☆刺青（入れ墨、タトゥー）治療

当院では刺青（入れ墨、タトゥー）治療も行っています。

治療方法は刺青の場所や大きさ、色などによって異なりますので、詳細は外来を受診して聞いてください。

ご希望内容に合わせた治療方法をご提案します。

治療費は手術費用だけでなく、手術前の検査、手術後通院治療も自費になります。

主な治療法はレーザー、切除縫縮、皮膚移植の3種類になります。

レーザー

レーザーでは色の薄い黒または茶色を除いて、色は薄くなりますが完全には消えません。

黒または茶色でも色が濃かったり、刺青が深かったりすると、薄くはなりますが消えることはありません。

メリットは外来通院で治療可能、傷跡が残らない、お手軽、治療費が安く済むことがある、などです。デメリットは完全には消えないことが多い、治療期間が最低でも半年から場合によっては2年以上かかる、治療期間が長引けば治療費が高くなることがある、などです。

治療費はレーザー照射料金のみで1回¥56,000円〜で、照射ごとに毎回この金額がかかります。

切除縫縮

場所や形によってはこの方法が可能です。

1回～数回の手術を繰り返し行って、最後は1本の線状の傷にします。

最終的には線状の傷跡は残ります。

メリットは1泊2日の部分麻酔で治療可能なことが多いこと、最終的な傷跡が比較的きれいなこと、治療費が比較的安く済むことがある、などです。

デメリットは場所や大きさによっては適応できないことがあること、1回で終わらないと治療期間が半年から場合によっては1年程度かかること、治療期間が長引けば治療費が高くなること、などです。

治療費は1泊2日の部分麻酔で治療可能な場合、1回20万円程度で、手術を繰り返す場合は毎回この金額がかかります。

皮膚移植

場所や形に関わらず、とにかくすぐにでも刺青を一度に切除することが可能です。

刺青を全て切除し、他の部分から薄い皮膚を移植します。

刺青を切除した部分と、皮膚を採取した部分には面状の傷が残ります。

メリットはどんなに大きくても、短期間のうちに1回の手術で完全に刺青を切除できることです。

デメリットは刺青を切除した部分と、皮膚を採取した部分には面状の傷が残ること、約7日から10日の入院が必要なこと、治療費が高くなることがある、などです。

治療費は7泊8日の全身麻酔で治療可能な場合、1回150万円～200万円程度で、手術前および手術後の通院治療にも毎回1～3万円程度かかります。